

公開・非公開の別

公開  部分公開

非公開

# 令和元年度第1回浜松市社会福祉審議会

## 地域福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和元年6月18日（火） 午後3時20分から午後4時
- 2 開催場所 市役所北館1階 101・102会議室
- 3 出席状況 委員  
小栗 康義（浜松市社会福祉協議会 常務理事）  
佐藤 順子（聖隷クリストファー大学 教授）  
渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会副会長・浜北市部会長）  
中村 勝彦（浜松民間保育園園長会 会長）  
鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）  
横山 美左人（浜松市立幼稚園PTA連合会 副会長）  
安間 清弘（浜松市青少年健全育成連絡協議会 副会長）  
藤田 正治（浜松市自治会連合会 理事）  
二橋 眞洲男（浜松市身体障害者福祉協議会 会長）  
渡辺 東作（浜松市民生委員児童委員協議会 副会長）  
浜松市健康福祉部  
森田 孔二（健康福祉部次長兼福祉総務課長）  
小池 恒弘（高齢者福祉課長）  
田中 孝太郎（障害保健福祉課長）  
渡辺 貴史（高齢者福祉課医療・介護推進担当課長）  
枝村 賢美（福祉総務課人権啓発センター所長）  
河合 龍紀（福祉総務課総務調整グループ長）  
荒熊 由美子（福祉総務課総務調整グループ）
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 議題1 第3次浜松市地域福祉計画の最終評価について
- 6 会議録作成者 福祉総務課総務調整グループ 河合 龍紀
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 有・ 無

## 8 会議記録

### 1. 開会

### 2. 委員紹介

### 3. 健康福祉部次長兼福祉総務課長あいさつ

### 4. 会長及び職務代理者選任

委員の互選により、佐藤順子委員を新会長に選出  
職務代理者は、渡辺東作委員に決定

### 5. 議事

議題1 第3次浜松市地域福祉計画の進捗報告について  
～資料により地域福祉計画の最終評価について事務局より説明～

#### 【質疑応答】

**二橋委員** 地域の支え合いに関する市民意識が進んでいると感じる人の割合が目標では、年々5%ずつ上がっているが、実際には反対に年々減ってきている。目標と実績の数字にこれだけ開きがあるのは、無理な目標を立てていたのか？それとも目標を上げる努力をしてこなかったのか？

**事務局** この目標自体は、上げていかないといけないということで目標値として設定したと認識しているが、ご指摘の通り、実際には市民の意識においては、その割合が落ち込んでいる。地区社協の活動に対しての課題と認識しており、第4次の計画でも引き続き地区社協への活動支援を入れている。

サロン活動や家事支援については、ニーズが増えてきているため、推進していきたいということで、今年度よりサロン活動への支援を拡大している。

一方、ボランティアの養成が課題と感じている。地域の限られた人材しか活動していないことは変わらないため、今後地域での助け合いの芽が出て、地区社協の活動に参加するボランティアの育成が急務であると考える。

**二橋委員** 地区社協を知っている人は、例えば自治会の役員経験者など特定の人が大半であり、知っている人が少ないのが現状。地区社協の活動の周知が必要であると感じるので、行政や社協のやる事業を周知してほしい。

**小栗委員** 困りごとなどがあって、地区社協との関わりがあった人には理解されているが、そうでない人は地区社協の存在を知らない人も多い。

特定の人だけでなく、広く市民ができるだけ参画できるようなイベントをやって、何かあったら地区社協へ行こうという流れができることが

大切であり、そのための周知は必要である。

二橋委員

地区社協に相談することはあまりない。CSW が配置されたことで、相談の役割を担っている。困った時には市社協（CSW）に相談するという流れができています。住民が地区社協を大切に育てる必要がある。

小栗委員

地区社協支援については、CSW だけでなく、生活支援コーディネーター、地区社協担当職員が「チーム社協」という形で行っており、今後も強化していきたい。

渡辺委員

地区社協が浸透、進展していかない原因として、地区社協に対する財政支援が十分でないというのも要因ではないか。1 地区社協上限 10 万円の補助の中、サロンの数が増えることで、1 サロンあたりの補助が減ってしまう。しかし努力しているところは、ロコモーショントレーニングをやって、別の補助金を活用している。ただ、本来はサロンの活動に対する補助金を上げた方がいい。

また、家事支援サービスについても、立ち上げのための初期費用が必要である。その分を上乗せしてもらえれば、地区社協の活動が進むと考える。

事務局

サロン活動については、課題として認識。1 地区の上限が決まっているために、数が増えると配分が減ってしまうというご指摘があったので、今年度より補助を増やした。また、家事支援については、新たに課題をいただいているので、お時間をいただき社協とともに検討していきたい。

小栗委員

補助金については、平成 30 年度では、54 社協に 3700 万円の補助金を出している。もちろん十分だとは思っていないが、限りある財源から出している。

鈴木委員

自分の地域の地区社協の認知度については、年 1 回地区社協だよりを出している、ある程度住民にとっては理解されていると思うが、実態は年 1 回事業をやっている程度。町の中心部だと、問題に対して住民が何を必要としているかを反映されにくい。

資料 12 ページの福祉サービス提供者への育成・支援の地区社協を支援するための研修会について、対象者は市民全体なのか？

事務局

市の社協が行っている事業であるが、広く一般市民向けではなく、地区社協の活動に関わっている方々の育成として研修を行なっている。

小栗委員

市社協では、サロンボランティアの養成講座を行ったり、子育て支援講演会など行ったりしている。

藤田委員

自治会として地域のボランティアについては、民生委員が一番活躍していると感じている。近頃、中学校区では、包括支援事業の一環で高齢者の支援をする形で動きが出ている。社協、自治会、民生委員を含めて協働して、地域で包括的に高齢者の支援を行っている。

自分の地域の地区社協の実態をみていると、活動がはっきりしない。

社協のメンバーは研修会に出席しているという実績はある。それをフィードバックして地域で展開し推進していくなど、具体的な形につながっていないのが課題。

サロン活動は、シニアクラブなど各町で自然発生的にやっているところもある。社協はサロンに対して、やっているからお金を出すという形で、具体的な働きかけが弱いと感じる。また、地域の皆さんに地区社協の存在意義が伝わっていないのが現状。回覧板で情報は出しているが、高齢者は回覧板をあまり見ない。こういう状況の中で地区社協の強化が課題である。

**渡辺委員**

地区社協の活動の課題が言われているが、実際に活発的に活動している地域もある。そういうところはコミュニティがしっかりしている。活発に活動している地区について検証していくことも必要である。

**佐藤会長**

今日は第3次計画の評価ということで、そこで出た地区社協の課題についての意見をいただいた。第4次計画では、市と社協が地区社協支援の体制を整えていき、活動に差がある地区社協の底上げを図れるようこれからの活動に期待してもらいたいと考える。

それでは、事務局には本日、委員からいただいた意見を反映して、各事業を進めるようお願いしたい。以上で本日の議事を終了する。

## 6. その他

## 7. 閉会